

テスミケリ、アリツキテ家トミ、タノシカリケリ、酒ノミアソビケルニ、トリアヘズ弓ライケルニ、マトノナカリケルニヤ、餅ヲク、リテ的ニシティケルホドニ、ゾノ餅白キ鳥ニナリテトビサリニケリ、ゾレヨリ後チ次第ニオトロヘテ、マドヒウセニケリ、○中ト云ヘル事アリ、餅ハ福ノ源ナレバ、福神サリニケル故ニ、オトロヘケルニコソ、福ノ體ナレバ、年始ニモテナスベシ、二人ムカヒテ、餅ヲヒキワルヲバ、福引ト云イナラハセルモ、ユヘナキニ非ル歟、又内裏ニハ餅ノ名ヲ福生菓ト云ルト云ヘリ、

〔和漢三才圖會 百五 酿○中
造○略〕

天子御齒固餐也、通俗鏡餐也、雜煮羹餐也、上巳蓬餐也、十月玄猪餐也、凡祭禮婚儀及一切嘉祝皆擣餅贈答之、

〔雍州府志 土產○缺餅〕
凡倭俗新年所用之餅有數品、鏡餅、又菱花片、菱比菱花形、花片則圓而比醎之謂也、又有小戴子持之號、小戴則戴餅、而子持其形小而比子孫之繁榮者也、以片團餅獻宗親、又供神佛、是謂鏡、以其狀相似稱之、其小者謂溫餅、或士農工商共聚常所用之器物於一所、施注連供鏡餅、注連則中華所謂葦索也、是禁不淨之謂也、醫師供藥籠、又士人供甲冑、是謂具足餅、倭俗身甲一具謂具足、凡甲冑有六具、悉具足之謂也、其所供之鏡餅、以刀截食之、是稱開鏡、又謂祝鏡、至甲冑忌斬殺之詞、故以手破餅、缺一片食之、故是謂缺餅、於今一切稱缺餅、

〔後水尾院當時年中行事上 正月○朔日○中
略〕
はいせんの人はひさしに候す、二獻まるる、初こんひし花女中にもたぶ、二日○中 御さかづきに三方一ツにひし花びら、こぶ、かちぐり、くしがき、かすのこ、あめ、五辛等さまぐの物をとり入て御前にまゐらす、四日、あしたの物、同七日をのぞきて、十四日まで、ひし花平を供す、十八日、うちくには例のひし花びらにて御祝あり、

〔婚禮法式 上〕
婚迎之部